

# 知ろう! 仏教讃歌

(9)

山口 篤子

## 《聖夜》

詞・九條武子  
曲・中山晋平

学（現・東京大学）仏教青年会館を拠点として26年に結成され、時代に即した新しい仏教音楽の創作・発表を目的に掲げていました。武子さまは仏教学者の高楠順次郎とともに顧問を務められ、合唱団のために少なくとも4編の詞を書かれています。その作曲を手掛けたのは、合唱団を指導していた弘田龍太郎でした。

から、現在ではほとんど知られていません。ただ、詞は、武子さまがお浄土へ往生された後、中山晋平による新しい旋律で、世代を超えて親しまれることになりました。

武子さまは『無憂華』のなかで、「仏教音楽の研究も、ようやく盛んになってきた」と喜ばれ、「私たちの歌わんとするものは、私たちの心からの表現であらねばならない」と書き残されています。《聖夜》とともに、武子さまの思いも、後世へ伝えていきたいものです。

（本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室研究員）

## 「心からの表現」を追い求めて

2月7日は如月忌。九條武子さま（1887～1928）の祥月命日です。仏教婦人会活動の礎を築かれた方として、今なお慕われる武子さまは、歌人としても活躍され、その和歌や詩には多くの作曲家が曲をつけています。なかでも有名なのが、中山晋平作曲の仏教讃歌《聖夜》（1942年発表）でしょう。

《聖夜》の詞は「讃仏偈」をモチーフとしています。ガンジス河の砂の数よりも多くの仏さまを、夜空に瞬く星々になぞら

えて描くところに、武子さまの瑞々しい感性が偲ばれます。この詞は、武子さまがお亡くなりになる半年あまり前、27年7月に刊行されたご著書『無憂華』に収録され、世に知られるようになりました。しかし、もともとほ、ある合唱団のために書かれた詞で、別のメロディーで歌われていたのです。

その団体の名前は、「ルンビニー合唱団」。東京帝国大



如月忌では《聖夜》の歌唱指導が行われる



収録CD：『讃歌集 二部合唱—あの空見れば』  
収録楽譜：『讃歌集 二部合唱』第9巻（本願寺出版社刊）

※スマートフォン、タブレットなどで上記QRコードを読み込むと掲載曲を聴くことができます。ご加入のプランなどに注意してご利用ください